



バイリンガル子育ての ヒント

vol.2

「よくある勘違い」

今回は、バイリンガル子育てでよくある2つの勘違いについてお話します。

その1..英語で言わないとわからない。

普段は日本語で子供に話しかけているのに、「大事なことは英語でないとわからないから。」と、怒る時は急に英語になる親御さんがいます。そうでしょうか？

怒る時も難しい話も子供が生まれてから一貫して100%日本語で話し続けられれば、子供は必ずそれを理解できる様になります。子供にはそういう能力が備わっているのです。たとえアメリカに住んでいても、です。

親が「子供がわからないのでは」と難しい話の時に、怖がって英語に切り替えてしまうと、当然子供にはその難し

い話のインプットがありませんから、難しい話は日本語ではわからなくなってしまう。確かに難しい話をする時は、子供が知らない単語や言い回しを使う必要があるかもしれません。それは後で、簡単な日本語で意味を説明してあげればよいのです。とにかく、始めに日本語のインプットありきです。

その2..私が日本人だから子供も簡単に日本語が話せるようになる。

アメリカに住みながら、日本語も話せるようになることはそれ程難しくありませんが、それ程簡単でもありません。学校に上がるまで子供がきちんと日本語を話し、バイリンガル子育てなんて簡単と思っていたら、英語オンリー

の現地校に行き始めて、途端に日本語を話さなくなったりという話をよく耳にします。

子供は周りの子供と同じにしたいもの。友達や誰か日本語を話さないことがわかると、途端に日本語を話さなくなることがあります。

これを防ぐには現地校の友達とは別に、日本語の友達をしっかりと作っておくことです。そうすれば現地校では英語、放課後や週末、あるいは夏休みに日本語を話す友達と会う時は日本語、と切り分け出来る様になります。親や兄弟姉妹と日本語を話すだけでは足りないのです。

子供が大きくなればなる程、友達に受け入れられることが重要になります。「日本語で話して当たり前」の友達がたくさんいることが日本語力の保持、向上には不可欠です。

宮崎 直子

津田塾大学英文科卒、イリノイ大学アジア研究科(日本語教育、言語学専攻)修士課程卒。ことば+カルチャー(kotobandculture.com)代表。

